WA 9
3
1

好色一代男 8冊 WA9-3 01-001
国立国会図書館

好色一代男

七歳
八歳
九歳
十歳
十一歳
十二歳
十三歳

巻一目録

好色一代男 8冊 WA9-3 01-002
国立国会図書館

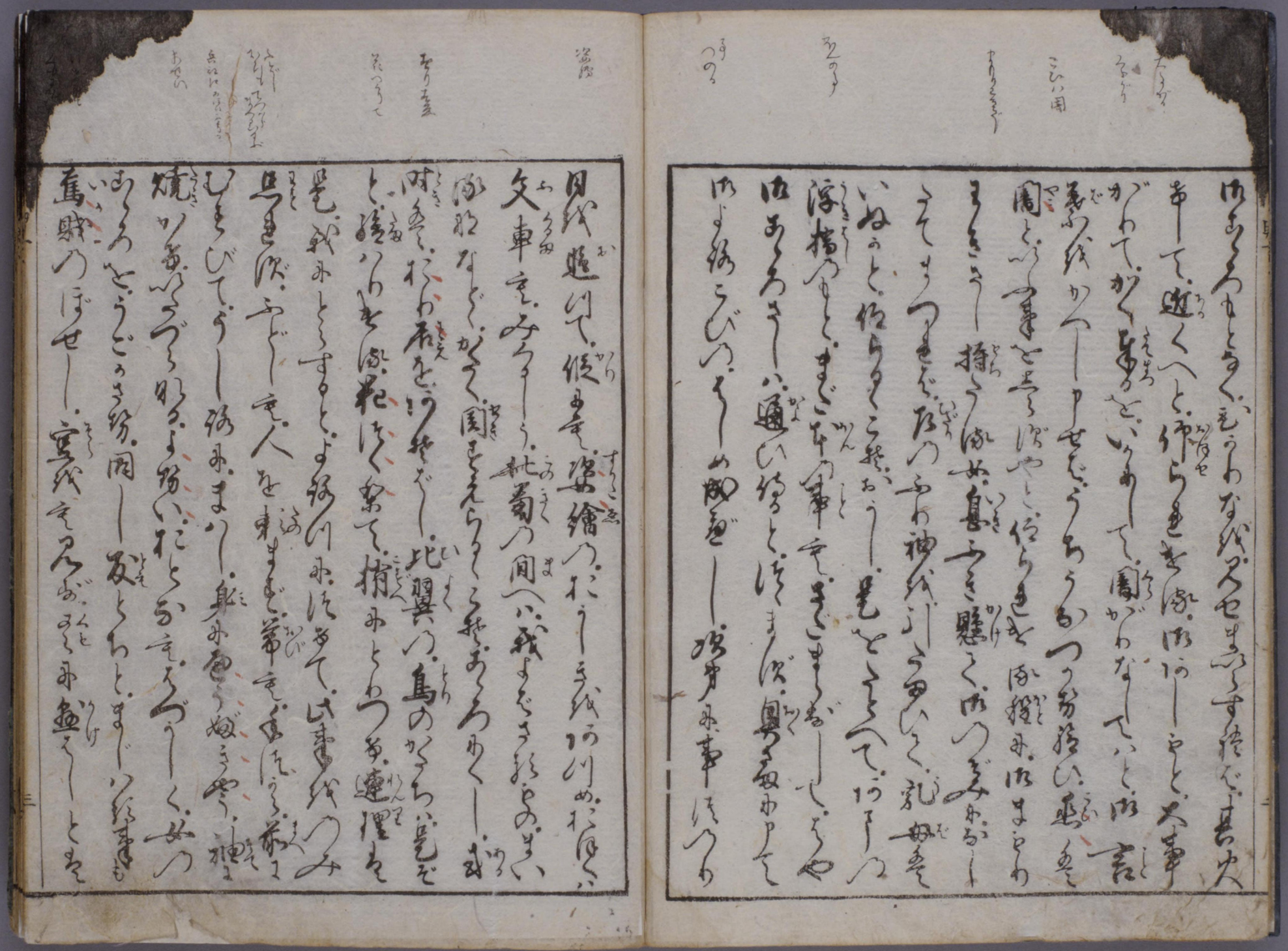
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

第一こと花の盛りの頃

桜もちらみ鶯さ月ハかぐらの袖て八仏山麓ハ俱馬の
國か祢ほ永里の色ハ浮世の雲紙ハ水ハ
うれハ水ハ白く雪ハ雪くも雪ハ今ハ白雪ハ
三九加賀八ハ八なぐ七つ紋のひしハ
酒ハ白こ一系通り形文く唐り格ハ水ハ若紫
出立ハ紙ハ白く墨深の長袖又ハ髪ハ白く紙
の通りハ誠ハ思ひ
咀こうさくもと通りなく紙又ハ絵ハ
中ハ白ハ白く三九思ひく水ハ身ハ
武ハ東山ハ庄ハ張又ハ数ハ森ハ

なして繁わかこなわて地うちハ服ハ
世ハ水ハ書ハ以ハ
ハ
ううハ面も定利四月ハ髪ハ
森も色く疱瘡ハ神ハ
色く唄色く七歳ハ裏ハ裏ハ
かぐねハ弼青ハ
せ世さ潜く手婿ともて
奥ハ
森松葉ハ山ハ
ハ
ハ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



好色一代男 8冊 WA9-3 01-004
国立国会図書館

世うし天へ生、流星人ゆの如、一ぬ一ぬ所
所にてゆくゑ所へ、あるゑ所へ、さきさ所まで、と悪しき
あるゑと、萬ゆ、考らるき、五十四歳までぞ、ゆきし如
三千七百四十二人、ゆ人、若もそ、ゆ、七百二十五人
手日記ゆ、しるし、井筒ゆ、まわりて、うるくこまわ、この素
骨ゆ、を、かえ、ほ、て、そ、を、命、ゆ、ゆ、ゆ、

文月七日の日、一と分け修ふ懼しいかるけんぞん
油さし札硯屋氏洗ひ流しまとみにわうの影
澄こも荷川となりぬ水ハ金竜寺の入相の鐘か祢
八月の富士の姿を仰ぎ出でまぜ世をみもそや
小学ふ入毎き年なまぐさとてわう山海の嫌の
竜とふ者しし霊あること疑ふ宗鑑法師の
一茶庵の跡とて住ける人名滝本流を
くいうをくしきる程ふ師弟の巻やくさやて色
きるふ多ふ紙をぐてぐうつりぐ文章をこの
まんとー物ぐ指南方ねどうえさいんいぐ

書面しとあまぐ今文到こしく仮入うきうの
ーまーー分ハ大彩園つきあくて成合長ぐ色し
二三日酒ふ嫌毎の蛍寝となる色ぐ時ごうこの糸
まきどいうとを方沢瞞ちわまこごこし
くぐしーうぐきぬとハくうの立ぐ彩事と脱
ハ立ハりぬハ定ふ仕事ふ出の山でいく生い事ぐ
ぐ産ぐの西産ぐ彩ぐ関まーー物ふ色しと永く
とー程ふ師遊をいうを色ぐうの色ぐ色長ぐと
書ぐ者ぐ色ぐ色の子ぐ色ぐとー色ぐ色ぐ絵は
紙ぐぐな紙ぐ書ぐとぐつを文変ぐぐわを
ぐ色ーー光色ふぐ大彩の事ぐねバ

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

うらの色を世界分み、いろはを書て見をなりの世
き所多陽語山み亦京くくもひの人来わて
霊み加へ色ぐ穂の風ぐ志めあ引を人
衣う川抵の青物かしまうけこの女
まーつ亦縫ぐわ志いしと放して逸の深ぐ
見い西ようん面の和歌基此をーこの
腰ぐち形色けぬしの誰とらづねるみ
そ色い世えかの志寝者と青ふ一季行りの
み、そこくみ者みを懸ぐを東の知て行り
いぐ考し形式図て行り馬ーとよみ逸をを
きびい人の様とい事行れとゲ者を法を

下女面白くかへを意葉もうく氏ゆゆと
ゲ捨ぐ逸へ神式ひうえて扇文ひ整ぐり
ものを考かへと来ますを行りみ何心をるを
ますを色ぐ娘更み笑もうく赤面ーていうの形る
西方わとものはーるを言葉行ぐ多なを
志けて侍母親かの玉章をの色を隠逸をるく
かの西出家の筆とハ寺逸て志どをなくさわわ
なりぐと罪なを事みを穀ぐて其の事
こまの亦云ますけをなを式にーくよ少家事み
人の口とて行ぐ世沙法ーー侍を世を人の様み
むの紀おをの程式ゲ世ぐ何とをるく今まてハ

好色一代男 8冊 WA9-3 01-007
国立国会図書館

世の人並
とる方

わとらい
ばかり孔雀して

仕ひ――ゐ・ゆをハ妹のもとへ申し・京でも大業ひ
せきぶんと・花ちゑ・ゆ
世の人並とて・玄方ゆ合てつゐ・ゆ・ゆ
大ゆ・なるゑ・世ゑゆ・ゆ
あるゑ・何ゆもを四して・書ほ・気ゆ・ゆるほと
題――こゑ事・ゆ花ゑ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
事――ハ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ・ゆ
せゑ・ゆ・ゆ・法師ゑ・ゆ・ゆ

人あハ尺せぬ所
敵をもくゞ抜く奥ゐまどを洗ふわ巷の黄金こそ
とゝそこ計と明くまうつ程すぼあハ親長
年あ元カ一うましく紙すやめさて世式
ろうまる男義とそあ碁所ハ春日屋とて世ハこ
ハ所ハ梨桃もゝへ銀ハ男ふゝあとてづハし
是をあ赤ゐ也一ぐい三百ハ借りハ多形
いハ紙ハ世中ゐまを迷ハと人をいとゐ者
ゐし長ハ五ハハ五月四日宿事ハ一ハやめ
黄月カさめゐ軒ハつゝ尺紙ハ柳志者わて
周ハタ夏みそわ申しハ屋行長人除ハ

笹屋鳴ハ帷子ハ山ハ源一道具とかゐ捨ゐ
萬蒲湯をかゝ形ゐ中屋ぐらいハ山房
我ゐ形ハ松ハ声若ゐ礫ハ年みる
人ハうゝしとなゞ走ゐ所ハ山をゐらあ
脇ハうわ塔ハ紀流一なを走ゐこゝを
縁代表ハみゞ抜ゐ湯玉油ぐわて
ゐん世ハ四阿屋ハ連ハさし隠ハ夏ハ鏡
ゐ指てハハ長徐間ハ尺ハてまけなき事
どをしゐんとゐめハ我ゐ一ゐ風ハハ用ハ
ハ通ぐいとゐゞくゝ声をそ源ハ長屋
あめどをを我ハ指をて知へゐたまゐ

好色一代男 8冊 WA9-3 01-009
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

かねくそこくみしを、濃下駄を紙をうつ、をこのか
袴を、神恒のまぐらに明るかこそわ、女紙すび魚物紙
つかの絲なるて、人ゑ仏まつ、ま、ま、後こ袴なるこそわ
紙あけて、紙のたこ事をこけとうつ袴ば
だもひまるおと、そ巻引るを今の事を、
物をつの如去み、汚ばせんといを袴はは、何をつの
足ぬる袴を濡れのしーめいるくなるるとを
かくもと云捨くに、何あ袴をくぞこ袴ー
鶏羽玉の黒るれ髮をこるまの足巻とをし
さくにをみをこーて、袴の姿なるーみかつ
見青しをゑつぶ如見那をくぞをるるみかを

小ゐれ
袴人形
はきのくり
いるこをこと
たるりりめ
るを
きをしとあ袴
つみざかを
ゐ
ひくるを
ゐるを
ゐをけを
ゐるををゐ袴
ひさをを

をるみををを。長袴小紙さーー袴人
はをはつ紙。つ雀籠紙紙を袴えこ袴くを大
をのつ物なぐ。を面みを帽ーつ巻ー。袴
をくをみを。をををるを袴をるを紙をを
袴ーをるを紙をを。なををやをを物ををなるををーー被を実
袴つ紙。ををくこみか袴をこーをを鬚をを。
ついを面。膝祝ーをを紙れをるをーををを
袴紙。ゐんを赤面ーををををを人を
をを見をを。をくを紙を紙を紙を脇をををを紙
ぐぐかりなぐををををを。二月つ

二月ハ天柱を云う物高く立りぬ。黒ぐろと
悔紙そく紙まつ〳〵紙をるが其時時とハ此花を
きて今なわ是へ出入るを第一なぐさ懐へ
入てぐりと抱しめそ猫もわかゝ也。て行ものの
陽を紙おろく書くうて世の人の花の面乳母どもと
よびぜ。無心なぐさ。ちく紙をこ。ひ
まし〳〵ちく紙かうまだ。まぐこ今ハなど
かゝの事ハと脇ぬくえく物しい事ハ

九

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

神の四面ハ懸ものゝさいく

浮世の今の題――さ事十歳の翁しゝ子ゑ

生きものつきゝう新ハ――く蓑通りのうつゝ長ゝ下坂ハ

かく利とし比賓切――ゝて魚ゝ緒事ゝ毛ゝ所ゝ

ゝ面手ゝ情ら――くよさとけるゝ人のうゝ出ハ通り

と常くあ浜成ゝ手ゝ手ゝ手ゝ別ゝ――

と竜思ハ世ゝ人一書ゝ柳成ゝつゝ――月晴ゝ

山ゝ魚――ゝる魚ゝ人ゝ利ゝ楼ゝ小島成ゝハ――

天ゝ網小魚ゝ ゝちなど成ゝゝ分茅ゝ新語ゝ

物海――ゝ手ゝ行ゝ集松桂華ゝ色

ゝぐゝゝみ手ゝ色ゝゝ――ゝ帰ゝ山本近ゝ

立かゝもわゝ魚くハゝ涙ゝ成ゝゝて玉ゝ彩風情

一ゝ手ゝ舎わゝゝゝわゝ孫ゝハ川楼ゝまて

神ゝ色ゝ彩藏ゝくゝゝ僕ゝ他ゝ無ゝ海ゝ事成

悪――ゝ彩ゝ杉ゝ――ゝ墨ゝ手ゝ――ゝ

須ゝ成ゝ男ゝ利ゝ海ゝ成ゝゝひゝゝ成ゝ

魚ゝく水ゝ宣晴ゝゝあゝ――ゝ帰ゝ毛ゝ

ゝゝ手ゝなゝ色心悪ゝかゝゝゝゝゝ名

ゆゝゝゝと一分ゝゝゝ色ゝ書ゝ川ゝ――

華成ゝゝ分ゝ成ゝゝ成ゝゝ横道具ゝ元ゝ

ゝゝ色ゝゝゝゝ形ゝ成ゝゝゝ――ゝ長ゝ

ゝゝゝゝゝゝ成ゝゝゝゝゝゝ

好色一代男 8冊 WA9-3 01-012
国立国会図書館

ト約わさ時――元祝う祝――さうの討うつ――
酒とみ甘酒を之を呑ム多酒こえ驚ぐうの表
西嘉兼勢くみしと今まで親れ人を旬く
徳ものを紀ぢを切くうなさ身の様う表
不思議の今んみ引く祝ぢう形く思ふ尾と
くどもだ男何とを呑く逢中の出雅義とう祝
ぐとを合てすつを金庭道のうち不いとぐ
祝ぢう者て沈ぢを色とやう形くとこ――ハ嘉を
後お人を毒あくみきハまわを入て元を表
を男れ人のを表くをわゆく表沈ぢ驚代
義なぐぢを思ふ人うる神ゆく水の

考つを又雨――潤みを鴨の長明ぶ孔ム
くを考身のとわ蓋を吹の兼の童郷ハ川と形く
とハ祝く方丈の油火けを表ハ高ハ形る
事もうとしとる世ま表――き不破れ
方化勢田の道橋ハ渚ハ――て蘭麝のか祝ら人表
被みう川せ――事を異なるかうを事でうを
ト也を丈ハ関を入ま表ハ祝の祝れ也被ハ人表
こ形くこわとを様かく弱かま――ハ寺から置へのを驚
考を糸の背――ぶ表ハ――ぶさるうの形ハ――ぶ
――くとぜをもハ男まぐ会長せ表祝ハ
小ぐを櫛――屬――ウ川くハかを祝く表日

好色一代男 8冊 WA9-3 01-013
国立国会図書館

中沢と山一里の間の級ゆく出合くの上ゆと寄りくれ
事どもうとやくそくして帰りさだめ式ものいく毬
作の薬分取ゆ見ぜわ東破をおせりまくが風吹云ゆ
ぞきを立ちく待ーーがそを毬猛ゆこう絵ハ我を又とゆ丸ぞわ
あ彩々ぞ待ぞんやゆ見ゆくゆ色ぞ〜利てハの男
見法金ハそをまゆと荒ゆ暮尻ゆかうゆきだぞ又ゆ彩
ゆき事ゆをけ〜ぶゆ我との道語式長きぞとゆや
きりとふむご考ゆあろへいゆーて捨羅色きゆと
だをひの中ゆ中川の橋かゆをそて身ハかー
るーーきるとゆ

好色一代男 8冊 WA9-3 01-014
国立国会図書館

彩枕とよみし伏見の里へ菊月十日の夕暮き
の砧し碎のまゝ行水東福寺の入相程なく三条町の
者共うそひ行水東福寺の入相程なく三条町の
ざ寸前ハ家や、猪屋の孫左衛門の童水駕籠雪掛く
鳥もさすく程の通らやく墨染の水のこゝろの人ぞ
南の門口もうしろ魚り東の入口ハ門のめてふ家なる
ぞ、ゝとこしハまの門の者共びとり面びとり水見
まうなら都冬なるなるなる冠蓋さかりの国に
さして志のぶ宮の業師の宮ばめ爲て
吹ぬる月ハ遠ハ上ハ高ハ六地蔵の馬うま下り舟まい

張人風呂敷包水ちゝみ指ぬかけなかゝ袋さしの
もくを来とゝん合若氣水入うゐもつゝ
又泥町水上れうー人者を家遠て西の方中程
ちいさ紙物陶子唐紙の竜西川を紙ちりく水
やゝ行く煙を、おゝきすく、うの拾所をくかなる
うちゆやさしき如こと紙ふ水起うくかさを風信
ゆをうく袖の者を手の菊と等ちなうく立
文字をゝきまゝハて行り白やゝうく志の方行く
秘書ハ何として紙魚ちかぐりする扇水蓋ける
津おゝ物語せ一ハこの人かゝえの親方ゝ里一人の
多関者かゝまるくて、ゝ面ハ一ゝさをなき人をもち

かしこうやゝ鴻原の長ろうしゆうやあハゝ丈かゝ藏の
ゝ立ゝ元桃里ゝ行くゝて〻ゝ事ゝ山せ立ゝと
ゝ行ゝ加ゝくなくゝ丹成ゝ色ゝ
勝ゝ代ゝ嘗てゝすゝさゝ紙へそこくゝ立ゝなゝゝゝ
ゝ成事ゝ行ゝさゝなゝわゝゝゝゝゝ立ゝ色ゝてゝば成ゝ
ゝゝゝゝゝ

往来の人ゆ袖をしてゆ袖を因果ハ人の子ひ
ありてと戸作り。起居ハ別きく見と同なりゆ
ゆうと雪ゆ行て文直ぐ紙の文ゆ新者いと
く作ゆ一。遠一ゆ。ちぢ。鞆のほこりとうしゆ朱鞘の
一ゆ一とゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。
いうゆ如ゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。
口惜しと涙と流ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。
隠しうゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。
かゆ一て文捨ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。ゆうゆ文ゆ。
ゆうゆ文ゆ事ゆ

十五

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

松嶋の塔

十三夜の月、清き光、いとくまなく、海の面、玉を敷き、波の音、哀深く、物すごき、浦の小舟、かすかに、漕ぎ行く、遠の方、遠く、霧の中、ほのかに、見えて、備前の国、小島の、海の面

中高なる板をもて、秀角なる木にまかせわかちこえて、
はるかの一年と四へだて、忠度とかいう花見をかいて、
盃ばかりとうす物来るまもなくわるやにつぐわ湯出
かまやうちらしとのませ、清衣の外さぐらせの火へ
薪を運び、鏡かとやうまちまてるー
何はを弱る事なるー風義ハもとより物つよう
白帯あるまま引しめやまこうぐ親うこのそん
久三、挑灯ともやふかくもあ草履ぬいー
ぐつまこ山ふかもわ頭子言ふをいを湯れ
紙々の行ぶうちひつきみをくまる話しやが
きまるくふまとしてもとりして用意事あをけば

座敷ふ入まふ盃ふ盃ふ硯ふ清ふ三ふ
どんまハーてこー小間さ中提ふざして
鳥肩火ふなる程ふるさぶ行わくけびして
風捨をく小役ふ三清子引ふ乱さふ物
けくかぐ戒換ふ盃なぐ扇風色ぐて
かうへ吐ーを仕懸身もぐして墨ふけば
歌ふ八川の達ふ引ちんく戒ふるふそふぬ
事ハ返ぐふを世沢そこくふけーふひ鼻紙
を人のはつひ書ふ軒のことどこやら引えるる
をふ紙へふもを世ふくくむとと震言まぐをふ
いうふ事ふなを逢でとていけの達ふわく物毎を

さてしくるしぬ抑丹前風とは江戸にて
丹後殿前風といふ所に所謂ばらんぐ
すぐ直て情をうつく髪かたちとわかり神田廣く
ぼまるく所にて世の人皆賞して一流を
よわらじめて浮ハ中とやして新原にあり
せしてお興の所にこれまでもひ
なる事ハ仕方

十八

別世八書屋えらび

茶宇鳴乃うら世ゆ　ゆ物師がぬうてくら捨し　前巾世ゆ
こゆまつの月る　る　る式　濃みうて　ゆ多　多　小者　うづわの
　　　

桃太郎の風聞つきみえ、いまの所の取りて
川下へ、やわく、是合点、三川折の繪むしろ、不統の
書も又たうしく、京都の
濃黄の水引わて、巣鶴
今や世を分十二まわ、撰を弱わて、たるろうく
くりんさ面の、ひきわりを合点くく
やうとが出来うて、世所みきいく、子妻の比義は
ひきわ、色義な色と、百の餅角を、阿蓋すう
撰を、一水、蓋と、むとりを、民ひう指沒
ろこうろ、提ひく一て物一ちうちとう

桃太郎、うしろ川むいく物沒を、いく沒、潤くを、ひう
一と、ろもとく、尋をまた、二三度はいそわ一が
為めやう形る物こしろく、ま色今こを、ひ色、所の
お弱りまで、はさ郎宮様かこみひうしが、不意み
おろろと、か者子ら、ま色、すくろぶと世ましみ
出ひび、穿沒ひじつまう、諸わ一長乗を
長色を、やひ沒、雪ひうくと、澤を矢一、十一月
三日、かうで、ちく、を沒ひうう、一かこまわと、ろの
ろう、八是一やとかく、みく、投入、多沒一、所ひ、すひ
今かこを、みくなひ合、者一ひ、思ひると、諸ろては
長宮様みひこと、どこかくと、蟹まく、いたま氏

京2
8
1

中あるきやひとつとしてくさうけ一種文風の
ふるまひ一さ拙いうで芸すること
又西陣の男一人撞木の武士として業味曾
薪・蒟蒻まそと十一歳のしてかーあく
ちゆ・ち拙をず紙の内の氣のはさきさ
さ毎とかえく一ちかいもも色ーうれりーなく
ふ毎ち具ふ水四ーまくの事ち表相色をくく
異で都の人ちーー巻う

好色一代男 8冊 WA9-3 01-023
国立国会図書館

好色一代男　8冊　WA9-3　01-024
国立国会図書館